

環境先進国

ドイツから学ぶ

吉田 浩巳

23



今回から数回に分けて、ドイツのNPOを紹介したいと思います。

40万人以上の会員で構成しているNABUという環境NPOが運営している自然保護センターの責任者であるロバート・エーゲリング氏と今年の初めからこの専従職員として、主に環境教育や水辺に関するプロジェクトの実務を担当して

ドイツ州にはNABUが運営している三つの自然保護センターがあります。そのうちの一つがこのビンゲン自然保護センターです。このビンゲン地域周辺だけでも1700人のNABUの会員がいるそうです。

このあたりはヨーロッパの自然保護地域にも指定されており、同時に人々の憩

年前に建設されました。以前はライン川の氾濫(はんらん)により、この施設自体が水没したこともあるそうですが、今は洪水が起これば、一帯が水に浸かっても影響が出ないように建て替えられています。

自然保護センターの役割は、いかに自然が残っているかを皆さんに知ってもらい、再認識をしてもらうことを目的にしているそうです。

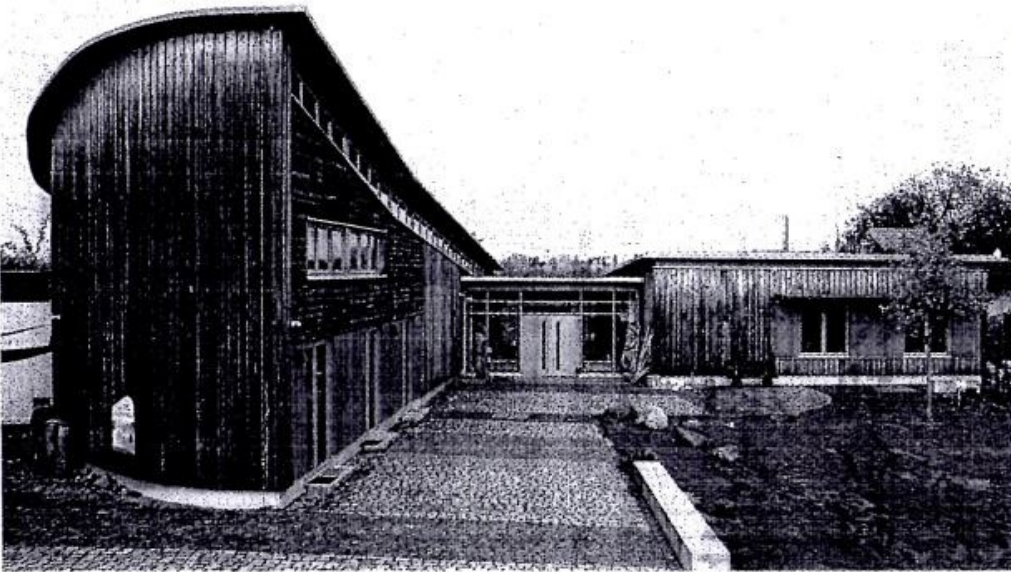
そのための手法として、1年中、子どもから大人ま

会員40万人のNPO①

通年で自然とふれあおう

いるマコルフスキーさんから話を聞きました。

この自然保護センターは25



市民の寄付によって建設された自然保護センター—ドイツ・マインツ州

で参加でき、自然に親しむイベントを開催しています。例えば、地域を再発見していただくことを目的に「この地域に住む爬虫(はちゆう)類」というテーマで展示なども行い、このイベント開催の2週間で約2000人が来場したということです。1日当たりの入場者に換算すると、休館日があるので約200人程度です。

また、マインツ博物館と共催で実施したイベントは1万2000人の来場者を得たとのことでした。通常は年間約8000人の方が訪れるとのこと、そんなに多い数字ではないと思いましたが、エーゲリング氏によると、地道な活動が大切だと話してくれました。

(社団法人まちづくり国際交流センター理事長)

毎月第2、4、5水曜

日掲載